

ベトナムの医療ICTの現状(1/2)

2-1. ベトナムにおける医療ICTの現状

1) ベトナムにおける医療ICTの普及状況

政府の計画、過去の調査報告書等から、ベトナム医療機関における医療ICT（本項では特に、HIS、PACS）の普及状況を概観する。ベトナム社会保障（VSS）は、近年、医療保険・社会保険の電子取引に対応するソフトウェアやITインフラに投資を集中している。

(1) HIS

HISについては、簡易なシステムを含めると、**ほとんどの大規模病院では導入済み**である。また、**省レベル・郡レベルの病院**でもその**普及率は6割を超えている**とされている。

- VSSは医療機関で実施された技術サービス、投薬の履歴を記録するソフトウェアを構築し、主に小規模な医療機関で利用されている。**ほとんどの大規模医療機関では独自のソフトウェア（HIS：請求情報作成システム）を有しており、請求情報を独自に出力**している。
- しかしながらこれらのソフトウェアは以下の理由により、業務効率化の為に有効に活用されていない。
 - **ユーザインタフェースが使いにくい。**
 - 医療機関で使われている**患者管理システムとの互換性がない。**
- 医療機関においては、**中央病院の100%、省レベル病院の68%、郡レベル病院の61%**で既に**HIS**のソフトウェアが**導入されている**。 出所) NTTデータ「ベトナムにおける医療保険システム近代化実証事業」、平成27年3月

ベトナムの医療ICTの現状(2/2)

(2) PACS

PACSについては、現状の普及率を示す数値はみつからなかったが、ベトナム保健省 IT 局「2016-2020年IT利活用・発展計画」では、2020年までに半数の医療機関にPACSを普及することを政府目標としている。

- **(2020年までに) 100%の病院がHIS**を持ち、**70%がLIS** (Laboratory Information System、**臨床検査情報システム**)、**50%がPACS**を持つ。

出所) 保健省IT局資料「ベトナム電子医療」